

春シラス漁の結果と秋シラス漁の見通し

(1) 春シラス漁 (2~7月) の結果

今期の春シラス漁の主要5港(大津, 久慈, 大洗, 鹿島, 波崎)合計水揚量は, 速報値で2,533トンとなり, 前年(1,664トン), 過去5年平均(1,752トン)を大きく上回りました(図1)。

4月以降の1日1隻あたりの漁獲量(kg)は, 5月25日から大きく増加し好漁が続きました(図2)。マシラス(マイワシシラス)は, 本県で割合が増加した平成29年以降では少ない年となりました。

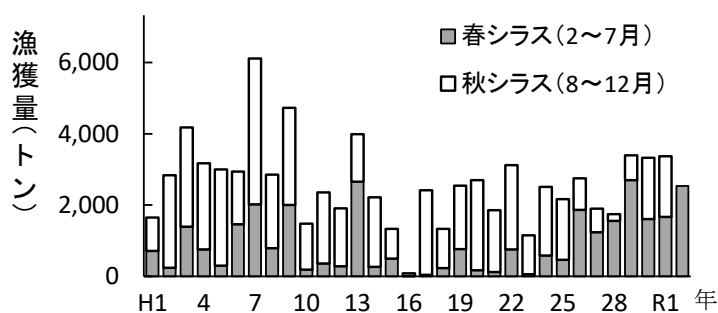


図1: シラス年別漁獲量の推移

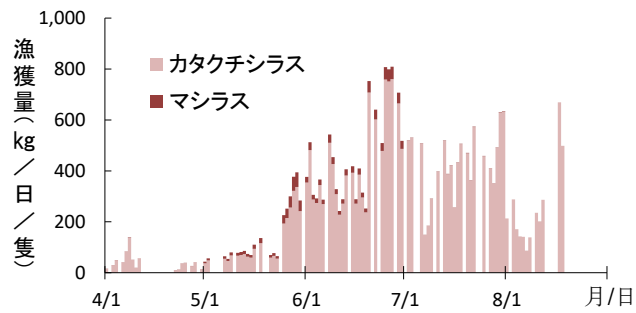


図2: シラス日別漁獲量(CPUE)の推移(8/18まで)

(2) 秋シラス漁 (8~12月) の見通し

①カタクチイワシの卵仔稚魚の状況

8月5~7日に本県沖(会瀬~犬吠埼)において実施した卵稚仔採集調査では, カタクチイワシ卵(0.6粒/曳網), 仔魚(18.5尾/曳網)であり, 卵で過去5年平均(1.7粒/曳網)を下回り, 仔魚は過去5年平均(1.8尾/曳網)を上回りました。

②海況の現況と見通し

8月5~7日の観測調査時では沿岸域への顕著な暖水波及はなく, 表層水温は「やや低め~平年並み」となっています。9月の水温は表層で「平年並み」, 下層で「やや低め~平年並み」となる予測です(詳細は「水産の窓令和2年-N0.12」)。

③まとめ

8月は18日までに県内合計で約350トンの漁獲がありました(図2)。近年では, 秋シラス期(8~12月)のうち, 特に8~9月の漁獲が主体となっています(図3)。

カタクチイワシの資源量や本県沖での卵・仔稚魚量と漁獲量の関係は現在のところ不明瞭ですが, 7月の沿岸水温が高いと8~9月のシラス漁獲量が減少する傾向が見られます(図4)。今年7月の水温は, 漁獲量と水温の関係を調べたH25~R1年の平均水温と比較して低い値でした(図4)。

以上のことから, 今年の秋シラス漁(8~12月合計)は, 過去5年平均(996トン)を上回るが, 好漁となった前年(1,706トン)を下回る見通しです。

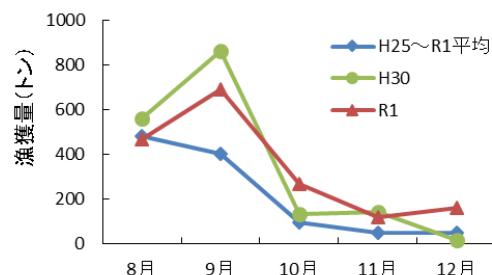


図3: 県内合計漁獲量の月別推移

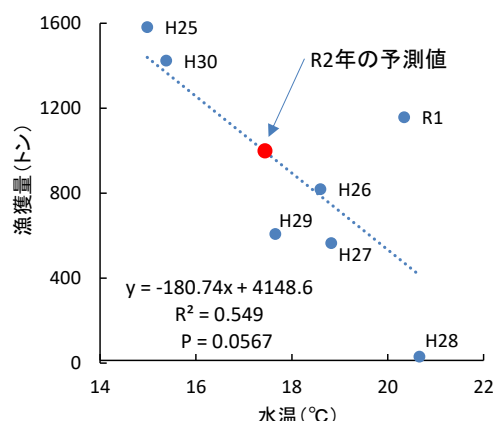


図4: 7月沿岸水温と8~9月県内合計漁獲量の関係(H25~R1年)

(回遊性資源部 高橋 佑太郎)

【次号予告】 R2.9.4 発行の水産の窓は, 「9月の海洋観測の結果」を予定しています。